

HopStepJump ⑥

授業づくり④

～ 道徳の授業づくり・道徳の時間について ～

<https://toyono-jinjikyo.com/>

第5回初任者研修は、桃山学院教育大学の龍神美和先生から道徳の授業づくりについて交流や演習を交えながらご講義いただきました。前半の講義では、道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の意味や読み物教材の分析方法について学び、後半には個人やグループで実際の教科書教材を使用して教材理解や指導案作成をするワークをおこないました。各グループで議論したことにも龍神先生からご助言いただき、授業の中での子どもたちの対話が思い浮かぶような具体的で実践的なお話をしていただきました。1学期の道徳の授業・道徳の時間をもとに振り返り、2学期にむけて学びなおす機会となりました。

～振り返りシートより～

読み物教材を分析する際の「4つの場面分け」が分かりやすかったです。今までの授業を振り返ると、主人公となる人物が葛藤しているところを意識できていなかったと思いました。今回教えていただいたことをもとにして、2学期の授業を考えていくことがとても楽しみになりました。**ねらいと中心発問をリンクさせながら、児童が意見を交流しやすい授業をつくりたい**と改めて感じました。

読み物教材を扱う上での注意点で、「読んで分かることはやらない」とおっしゃっていたのが印象的でした。**書いてあることを読み取る国語とは全く違うことを再認識しました。**つい気持ちを聞きたくなる道徳ですが、あまり聞きすぎてもよくないことも学びました。どんな気持ちかを問うのではなく、「なぜこうしたのか」、「このあとどうなるのか」など他の考えやすいところから気持ちに切り込んでいく仕組みを作りたいと思いました。

龍神先生が実際に見せてくださったように、**一対一にならずに聞いている子（見ている子）も巻き込んだ授業がしたい**です。役割演技もやってみたいと思います。教材分析の仕方や授業のつくり方、発問の考え方も教えていただいたので、研修の資料をとなりに置いて授業づくりをしていきたいです。

道徳の授業を「自分の良さを見つける時間にする」ことも大切にしたいと思います。子どもに対して「〇〇しないといけない」「〇〇しよう」と伝えてしまっていたので、子どもたち自身で考えていきながら**現在の自分の良い部分に気づけるようにしていきたい**です。

教材分析は指導書を全く見ていない状態でおこなった分、内容項目がどれにあたるのか、中心発問はどうするのかをゼロから考えることができ、班の人の意見も聞くことができ、**普段だったら難しいことが研修でできた**のでよかったです。

講義の前半の「正直にすることがなぜ善いのか」を考えたとき、なかなか自分の考えを言葉にすることができず手が止まっていました。しかし、グループで意見交換したときに自分の考えと似た考えの人がいたので、言葉を借りて書くことができました。このように、**人の考えを聞いて自分の考えを深めていく「道徳的にかしこくなる」**ことを経験し、実感することができました。

「なぜ正直であるのが善いのか」という発問に対して自分なりに考えたあとグループで共有することができ、そこで改めて**他の人と意見を共有することで学びを深め、価値を広げることの楽しさを感じました。**この楽しさを子どもたちにも実感してもらえるような発問や場の設定をしたいと思いました。



研修での先生方の「学ぶ姿勢」は、授業での子どもたちのそれとリンクしています。みなさんがめざしている、育てたい子どもたちの学ぶ姿勢を、みなさん自身が体現していますか？

様々な授業スキルを学べた中で、生徒の集中できる時間を知り、リスタートをするということは今後実践しようと思います。そして、発問の仕方も大切ですが、その後の深め方や意見交流をして相手と共有する大切さに改めて気づきました。

ねらいを明確にもつことや発問を精選することなど、**道徳の授業だけでなく、他の教科にも使える基本的なことを学べました。**教科書通りに進めるのではなく、子どもに伝えたいポイントをおさえ、それを軸に授業を組み立てたいです。

子どもたちの中に価値を増やすことや見出すことをねらいにして授業をつくっていきたいです。また、生徒に伝えたいことをもとに授業を構想するのは教科も道徳も同じだなと思いました。

今回は「道徳」をテーマにした授業づくりの研修でしたが、他教科の授業づくりにもつながることがたくさんあったと思います。また、授業づくりについて学ぶことは、子ども理解や学級づくりにもつながることが多いです。研修からしばらく経ったところに返却される自分の振り返りシートや、この研修通信を読むことで講義での学びを思い返し、実践と研修を行き来しながら理解を深めてください。

龍神先生の机間指導がすごい上手だなと思いました。**一切マイナスなことを言わず、プラスに変えていく声かけを見習っていきたい**と思います。また、机間指導で見取ったようすや情報を全体で共有するなどのフィードバックの仕方がすごいなと思いました。

2学期の道徳では、子どもが対話する中でいろいろなことを考えられる授業にしたいと思います。授業をよりよくするための工夫を**龍神先生と、同じ班の先生たちからたくさん学ぶことができました。**

龍神先生の話し方や共感する姿勢が私たち目線で接してくれていると感じ、それがとても心地よくて講義を受けやすかったです。これは私が実際に子どもたちと関わる上で大切にしたいことだと思いました。授業ではねらいもっていきこうと必死になって、ついつい私が話しすぎてしまいます。改めて子ども目線になって、どう聞かれたら答えやすいかを考えたいと思います。

実際にグループで話し合いをして教材研究をしてみると、それぞれの意見や教材の見方が違っているところや似ているところもあって、**意見交流をすることでより広く学ぶことができることも分かりました。**初任者研修で与えられている機会も生かしながら、これを実際の授業につなげていけるようにしないといけないなと思います。学校内でも近くの先生たちと短い時間でも話をしたり、意見を聞いたりする時間をつくっていきたいと思います。

講師の姿から学ぶ姿は大変立派です。また、受講者同士で学び合うこと、さらには、研修の前後で校内の先生方と研修内容について話すことにも価値があります。授業の話・子どもの話ができる同期や同僚の関係をいつでも大切にしてください。

研修をきっかけに学び直すこと・考え直すことはたくさんあります。新しい知識や視点を得る機会でもあり、これまでの実践を振り返り、意見を交わすことで、自分の考えを整理するのも研修の機会ならではの事です。今回は、実際の教材文（著作権等の都合もあり当日のみの配付）を用いての演習もありましたが、これまでの授業とも結びつけて課題や改善点を考えてみてください。気づけば初任者としての今年度も折り返しです。今後も研修をよい機会にして、「子ども主体の授業」を追い求める学びを続けてください！

